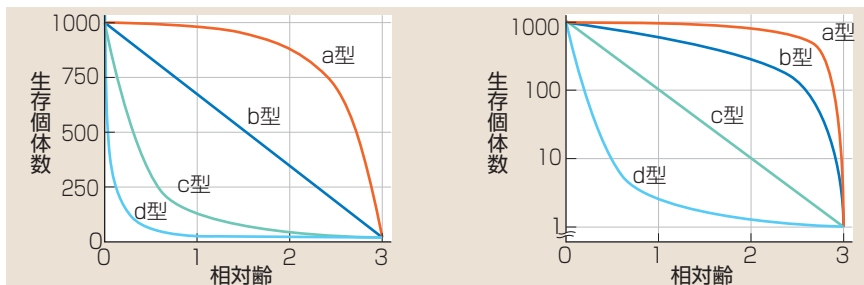


▲図15 イワサキクサゼミとミミナグサの一種の生存曲線 生存個体数は対数で示した。

植物の見られない砂丘上に芽生えたミミナグサの一種は、冬が来るまではほとんど枯死しない。その後、地表面を這うロゼット(⇒p.279)状の葉を展開した植物の多くは、3月下旬から開花し、結実して5月中旬には一生を終える。このように、生存曲線は、その生物の生活のようすを反映している。

5. さまざまな型の生存曲線を模式的に示したのが、図16である。左のグラフで直線となるb型は、時間あたりの死亡個体数が一定である(⇒p.410表2)。一方、生存曲線の比較では、普通死亡率が一定のc型を基準とするため、図16の右グラフのように生存個体数を対数(⇒p.463資料②)で表すことが多い。



▲図16 生存曲線の4つの型

- a. 死亡が老齢期に集中する場合      b. 齢ごとの死亡個体数が一定である場合  
c. 齢ごとの死亡率が一定である場合      d. 死亡が幼齢期に集中する場合